

連合婦人

復刻版

全9巻・付録1・別冊1
1928(昭和3)年5月〜1942(昭和17)年9月

◎体裁 A4判・B5判・総3、860頁

◎解説 後藤明日香

◎推薦 加納実紀代・酒井シヅ・吉岡博光

◎配本 全3回配本(2012年12月〜2013年10月)

◎定価 本体揃価格200,000円+税 ISBN978-4-8350-7351-4

一九二二(大正一一)年九月一日の
関東大震災を機縁に
大同団結した婦人団体は、
東京連合婦人会に集合した。
東京市内外、三〇有余(第二号発刊時)の
婦人団体の連絡機関誌を復刻。
昭和戦前・戦中期の日本婦人連帯の
魂が読みとれる貴重資料!



「東京連合婦人会総合模擬店風景」

不二出版



連合婦人

復刻版概要

復刻版巻数	原番号	原発行年月	本体価格
●第1回配本	2012年12月	本体価格60,000円+税	ISBN978-4-8350-7352-1
第1巻	1〜18号	1928(昭和3)年5月〜1930(昭和5)年10月	
第2巻	19〜36号	1930(昭和5)年11月〜1932(昭和7)年6月	
第3巻	37〜53号	1932(昭和7)年7月〜1933(昭和8)年12月	
●第2回配本	2013年4月	本体価格60,000円+税	ISBN978-4-8350-7356-9
第4巻	54〜64号	1934(昭和9)年1月〜12月	
第5巻	65〜74号	1935(昭和10)年1月〜12月	
第6巻	75〜85号	1936(昭和11)年1月〜11月	
●第3回配本	2013年10月	本体価格80,000円+税	ISBN978-4-8350-7360-6
第7巻	86〜95号	1937(昭和12)年1月〜11月	
第8巻	96〜116号	1938(昭和13)年1月〜1939(昭和14)年11月	
第9巻	117〜147号	1940(昭和15)年1月〜1942(昭和17)年9月 [143・145・146号、148号以降は未見]	
付録1		①『昭和十四年婦人年鑑』東京連合婦人会・1938(昭和13)年12月発行 ②『沿革史』財団法人大日本連合婦人会・1942(昭和17)年1月発行	
別冊1		解説(後藤明日香)・総目次・索引	

- ◎巻数 全9巻・付録1・別冊1
- ◎体裁 A4判(第1巻〜第3巻)・B5判(第4巻〜第9巻・付録1)・総3、860頁
- ◎別冊 解説・総目次・索引
- ※別冊のみ分売可。本体2,000円+税 ISBN978-4-8350-7366-8
- ◎解説 後藤明日香(東京女子医科大学史料室・吉岡彌生記念室)
- ◎定価 本体揃価格200,000円+税 ISBN978-4-8350-7351-4
- ◎配本 全3回配本(2012年12月〜2013年10月)
- ◎推薦 加納実紀代(女性史・ジェンダー史研究者)
酒井シヅ(順天堂大学医学部研究室)
吉岡博光(東京女子医科大学理事長)



「総会運動会出場の吉岡彌生委員長」

不二出版

〒113-0023
東京都文京区向丘1-2-12
電話03-3812-4433
ファクシミリ03-3812-4464
振替00160-2-94084

●表示はすべて税別

復刻にあたって

吉岡彌生を委員長とする東京連合婦人会発行「連合婦人」は、戦前期女性史の基本資料である。吉岡彌生は一九四二年三月、本誌第一四一号の一面で、「婦女新聞」廃刊にあたり、主宰の福島四郎に対する感謝を記している。その福島は、「連合婦人」第一号に広告を出し、同志の婦人を天下に求めた。

本誌を、婦選獲得同盟機関誌「婦選」(のちに「女性展望」と改題)、日本キリスト教婦人矯風会機関誌「婦人新報」に並ぶ必用の資料として復刻する。婦人参政権運動、廃娼運動の錚々たるメンバーが健筆をふるい、「団結は力、帝都を思う母心」を標語とし、女性の団結を真に模索した本誌が、現代の私たちに教えてくれるものは多い。

東京聯合婦人会とは

東京聯合婦人会は、大正十二年(一九二三年)東京大震災の犠牲者から誕生した婦人団体である。その目的は、被災者救済と、婦人の生活改善、社会進出の促進、婦人団体の連絡提携の機能をもつたことにある。

昭和十四年版婦人年鑑

婦人年鑑は、昭和十三年(一九三八年)創刊された。その目的は、婦人の生活実態を調査し、その進歩を記録し、婦人の生活改善に資することにある。

創立十周年「特輯號」主要目次

- 時事寫真「竹内女史祝賀會畫報」
東京聯合婦人会創立十周年を迎へて
和歌「白菊」
協力による喜び
東京聯合婦人会の陣容
震災後に於ける婦人の動向
今日の世相「相談時代は何を意味する」

- 一、文藝復興に對する婦人復興の緒
二、一と昔のこと
三、婦人ホームに日參婦選獲得同盟金子しげり
四、震災當時の教育部の活動
五、大久保時代の思い出
六、熱意の外の何物もなかつた
七、第二期の活動へ!
八、拍手出來たオットセイ

- 一、文藝復興に對する婦人復興の緒
二、一と昔のこと
三、婦人ホームに日參婦選獲得同盟金子しげり
四、震災當時の教育部の活動
五、大久保時代の思い出
六、熱意の外の何物もなかつた
七、第二期の活動へ!
八、拍手出來たオットセイ

付録1 所収「昭和十四年版婦人年鑑」1938(昭和13)年12月



Table of contents for the 1935 edition of 'United Women' magazine, listing various sections and their authors.

「汚名」にとらわれることなく 「帝国のフェミニズム」の解明を

加納実紀代(女性史・ジェンダー史研究者)

『連合婦人』は忘れられた雑誌である。同じような姿勢に立つ『婦選』(のち『女性展望』)や『婦女新聞』は早くに復刻され、戦前日本の女性運動を研究する上で必見の文献となっている。しかし『連合婦人』は自主的な女性団体三〇余の連合体の機関誌として、幅広く女性運動が跡づけられているにもかかわらず、これまで取り上げられることはほとんどなかった。なぜだろう？

どうやらそこには、戦時下の国策協力という「汚名」が関係しているらしい。雑誌の刊行は一九二八年から四二年秋まで、満州事変から日中戦争、さらにアジア太平洋戦争へと拡大する戦争の時代と重なっており、誌面では戦費捻出のための貯蓄増強が呼びかけられ、「婦人総動員」や「軍神の母」を讃える文章もある。最近、戦前日本のフェミニズムに対して「帝国のフェミニズム」という批判が投げつけられている。一国主義的で自国の植民地支配や侵略戦争の加害性に無自覚だという批判だが、それでいえるばまさに『連合婦人』は「帝国のフェミニズム」雑誌の感はある。

しかし最初からそうだったわけではない。一九三〇年代前半までは男女共学論で有名な国際派フェミニスト小泉郁子が毎号筆を執り、女性参政権や母子保護等の問題とともに平和への願いが語られている。それがいつから、なぜ、どのようにして戦争協力になだれこんでいくのか？

戦時下の国策協力は『連合婦人』に限らず他の女性雑誌についてもいえることだ。「汚名」にとらわれることなく、『連合婦人』の軌跡を丁寧にとらること、日本の「帝国のフェミニズム」解明は大きく前進するにちがいない。

女性史の重要資料『連合婦人』復刻に感謝

酒井シヅ(順天堂大学医学史研究室)

『連合婦人』は吉岡彌生が委員長をつとめた東京連合婦人会の機関誌である。吉岡は東京女子医科大学の創立者であり、明治初期から早くも女子の社会進出を強く主張してきた人である。東京連合婦人会は関東大震災直後に、都内の婦人団体が集合して、男女平等、婦人参政権の実現を求めて結集した組織である。それから五年後、昭和三年に機関誌『連合婦人』が誕生した。誌面には委員長吉岡彌生が健筆をふるうが、その内容が新鮮であるのに驚かされる。現代も日本では女性の幹部社員が少ない、社会的にトップに進出している人の数は先進国のなかに比べて低い。

吉岡の女性の社会進出をもとめた基本的な姿勢は現代と余り変わらない。吉岡彌生の生涯を顧みると、女医教育にだけ生涯をかけたと思われがちだ。確かに、女性の進出を無視する男性の中であって、女医学校という核を作って、着々と女医の路を切り開いていった。女医を選んだのは、当時、女医がもっとも男性に近い経済的独立を勝ち得たからである。思惑はあたり、女医の社会進出が女性全体に大きな影響を与えた。

それだけに吉岡のことを現実的で、体制派で、哲学、思想が欠けるという人もいるが、『連合婦人』をみると、それが誤りであることを知る。『連合婦人』は吉岡に限らず、この時代の志ある女性が女性の地位向上を目指した思い、困難に立ち向かった思想は生半可でなかったことを正確に知ることが出来る資料である。

過去から現在、そして未来へ渡す思いの結晶

吉岡博光(学校法人東京女子医科大学理事長)

東京女子医科大学の創立者であり、私の祖母でもある吉岡彌生は、その生涯を通して当時いかにも低かった婦人の社会的地位を向上させようとした。そのため、昭和二年一月に東京連合婦人会の委員長に就任し、抑圧されていた女性の自立を促すべく活動を続けた。

この度、復刻される『連合婦人』は吉岡彌生が女性の社会的自立と地位向上のために精力的に活動し、最も輝いていた時代に発行されたものである。そして、吉岡彌生をはじめとした多くの優れた女性達が『連合婦人』の中に残した珠玉の言葉の数々は、数十年経った今もなお色あせることなく、その言葉に触れた我々に語りかけてくるはずである。

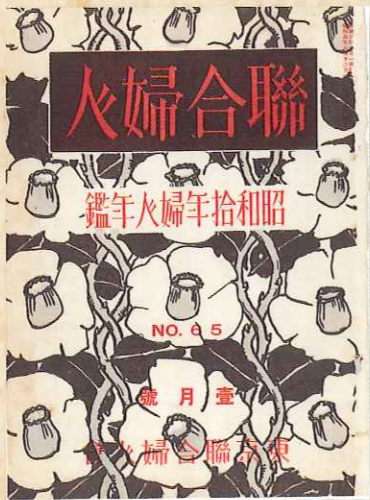
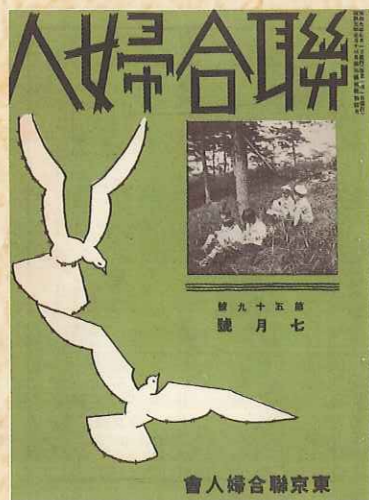
吉岡彌生は「連合婦人」会報発刊に際して東京連合婦人会の使命を「団結は力、帝都を思ふ母心」とし、婦人について「悲境に陥れば陥る程、団結する美しさを持つて居る」と述べている。平成二十三年三月一日に我が国を襲った未曾有の大災害において、その心が未だ我々の心に息づいていることが証明されたことは記憶に新しい。

そのことから分かるように、吉岡彌生の思いは、過去から現在、そして未来へと続く道程の中で不変のものといえるのではないだろうか。『連合婦人』には、このような今も変わらず我々にとって価値ある内容が数多く掲載されている。それはいわば宝石箱のように我々を魅了するであろう。読者の皆さんが、その宝石に触れ、自身を着飾っていただければ吉岡彌生に連なる者として、これ以上の喜びは無い。

主要執筆者名

赤松 明子	嘉悦 孝子	小口みち子	竹内 茂代	羽仁 説子	本多 静六	森本 厚吉
生田 花世	片山 哲	児玉 勝子	千葉 亀雄	羽仁もと子	前田 多門	守屋 東
市川 源三	金子しげり	今 和次郎	塚本 ハマ	浜口 雄幸	真杉 静枝	矢田津世子
市川 房枝	神近 市子	佐伯 矩	徳永 恕	林 歌子	松平 浜子	柳原 白蓮
井上 秀子	河口 愛子	佐多 稲子	留岡よし子	林 癸未夫	宮城タマヨ	矢野 恒太
今井 邦子	河崎 なつ	斯波 安	永井柳太郎	平林たい子	三宅 花圃	山川 菊栄
大江 スミ	ガントレット恒子	上代 たの	中河 幹子	平林 広人	三宅やす子	山田 わか
大妻コタカ	木内キヤウ	杉田 鶴子	中桐 龍太郎	弘田 龍太郎	宮島新三郎	山榊 儀重
大浜 英子	菊池 寛	杉森孝次郎	生江 孝之	深尾 須磨子	宮島幹之助	山脇 房子
岡 弘毅	清沢 洌	千本木道子	新居 孝之	福島 四郎	三輪田繁子	遊佐 敏彦
岡 実	久布白落実	高島 米峰	新妻伊都子	藤田 四郎	三輪田元道	与謝野晶子
岡本かの子	小泉 郁子	高橋 清吾	二階堂とくよ	星島 二郎	村岡 花子	吉岡 弥生
奥 むめお	江家 義男	高群 逸枝	新渡戸稲造	穂積 重遠	村上 秀子	吉田 章信
尾崎 行雄	高良 富子	田川大吉郎	長谷川時雨	堀切善次郎	本野 久子	

※主要執筆者名は旧漢字を新漢字に改めた。



関連図書(復刻版)のご案内

女子文壇社刊(一九〇五〜一三年刊行)

女子文壇

全五四巻・別冊一

●別冊II解説(渡邊澄子)・総目次・索引

●菊判・上製・総約二五、〇〇〇ページ

●挿定価II本体九万九千円十税

若い女性たちの自己表現の場を提供した投稿雑誌。文壇への登竜門であると同時にのちに広く社会に影響を与えた女性たちを輩出した。

『女子文壇』執筆者名
記事名データベース

●監修・解説II金子幸代

●体裁I DVD一枚+解説ブックレット

●定価I本体二万円十税 ISBN978-4-8350-6691-2

DVDには、小社刊『女子文壇』解説・総目次・索引で割愛されていた、一般投稿者の表現内容や居住地などの詳細データも収録。データ活用者の利便を考慮し、同内容のデータを、保存形式の異なる2種類のファイル(CSVとMicrosoft Excel)を提供。

叢書『青鞥』の女たち

全二〇巻(総二二冊)

●函入・総七、七二〇ページ

●挿定価II本体一五万円十税 ISBN978-4-8350-5210-6

『青鞥』同人及び『青鞥』周辺の女たちの代表的著作二〇点を選び、復刻。それぞれに解説付き。

西川文字ほかII主宰(一九二二〜一七六年刊行)
新真婦人

全六巻・付録一・別冊一

●別冊II解説(岡野幸江)・総目次・索引

●菊判・上製・総四、一一二ページ

●挿定価II本体二万円十税 ISBN978-4-8350-3619-3

男性中心社会を厳しく糾弾し、女性問題・女性解放を見据えた評論雑誌。大正デモクラシーの息吹を伝える多彩な執筆陣を擁す。

ピアトリス社II刊(一九一六〜一七七年刊行)
ピアトリス

全一卷

●解説(岩田なつ)・総目次・索引付き

●菊判・上製・総六五〇ページ

●定価II本体一万八千円十税 ISBN978-4-8350-1122-4

『女子文壇』『青鞥』に連なる、女性に開放された文芸雑誌。平塚らいてう・岡本かの子・吉屋信子などが執筆。

大日本婦人会II刊(一九四二〜四五年刊行)
日本婦人

全五巻・別冊一

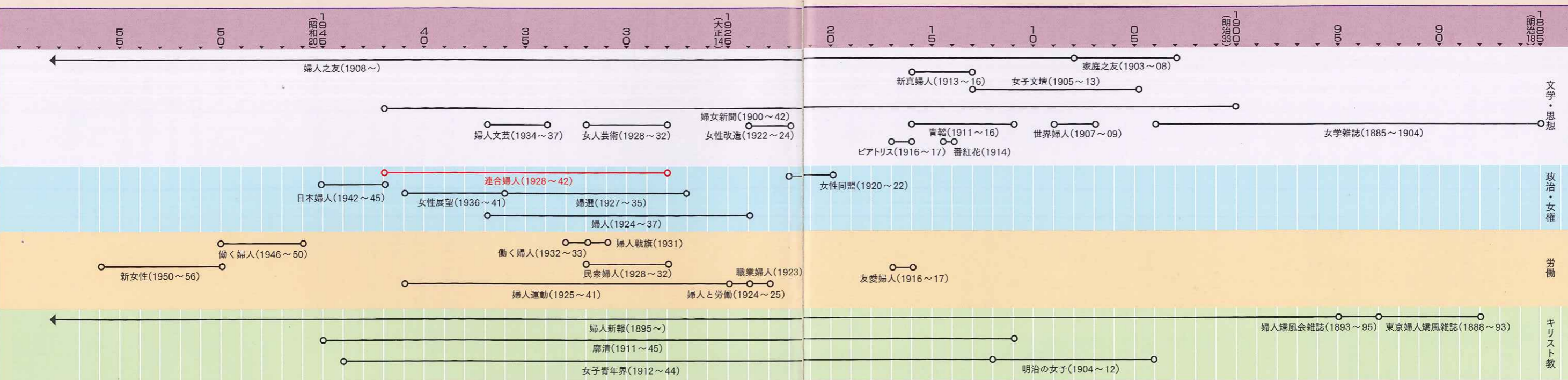
●別冊II解説(小山静子)・総目次・索引

●B5判・A5判・上製・総一、六八六ページ

●定価II本体八万円十税 ISBN978-4-8350-7070-4

総力戦下の女性動員を明らかにする貴重な雑誌。戦時下の成人女性のほとんどを統合・網羅した最大の官製女性団体「大日本婦人会」の機関誌。

女性雑誌・機関誌の系譜



新女性社II刊(一九五〇年〜五六年刊行)

新女性

全二六巻・別冊一(DVD付)

●別冊II解説(伊藤康子)・総目次・索引+DVD

●DVDII全号表紙画像及び総目次・索引データ

●A5判・上製・総九、四九六頁

●挿定価II本体三万七千円十税

敗戦後、『働く婦人』などいくつもの女性雑誌が誕生するなか、啓発的な立場からでなく編集部と読者との緊密な提携によって運動の歴史に新たなページが刻まれた。現実を直視した名もなき女性たちによる闘争と活動の記録!

改造社II刊(一九二三年〜二四年刊行)

女性改造戦前編

全二二巻・別冊一

●別冊II解説(尾形明子・鈴木裕子)・総目次・索引

●A5判・上製・総七、二四二ページ

●挿定価II本体二万円十税

社会主義色の濃い総合雑誌として成功していた『改造』の姉妹誌として刊行され、文学・評論・科学分野での豪華な執筆陣に加え、一九二〇年代のフェミニズムの旗手である女性たちが多数執筆した女性解放雑誌。

奥むめおII主宰(一九二二〜四一年刊行)

婦人運動

全三〇巻・別冊一

●別冊II解説(鈴木裕子)・総目次・索引

●A5判・B5判・上製・総九、九三八ページ

●挿定価II本体三〇万円十税

生活者であり労働者である女性の立場に立ち、『婦人消費組合協会』『婦人セツルメント』『働く婦人の家』を設立してきた職業婦人社の機関誌。

全関西婦人連合会II刊(一九二四〜三七年刊行)

婦人

全二四巻・別冊一

●別冊II解説(藤目ゆき)・総目次・索引

●B5判・上製・総九、八六〇ページ

●挿定価II本体四万円十税

西日本で三〇〇万人の会員を擁した戦前期最大規模の女性団体全関西婦人連合会の機関誌。女性差別的な法律の改正・廃娼運動・婦選運動などに積極的に取り組んだ。

婦選獲得同盟II刊(一九二七〜四一年刊行)

婦選

全一九巻・別冊一

●別冊II解説(松尾尊兎・兒玉勝子)・総目次・索引

●A4判・A5判・B5判・上製・総七、五七二ページ

●挿定価II本体二万九千円十税

婦選運動の中核となって女性の参政権・公民権・結社権の獲得を目指した婦選獲得同盟の機関誌。

神近市子II主宰(一九三四〜三七年刊行)

婦人文芸

全一〇巻・別冊一

●別冊II解説(黒澤亜里子)・総目次・索引

●菊判・上製・総六、三六二ページ

●挿定価II本体一五万円十税

文学雑誌であると同時にフェミニズムをはっきりと意識した本誌は、『女人芸術』後の数少ない女性表現のメディアであった。

